

次号予告

とびら.....	田 原 澄 彦
展 望	
VOJTA 法について.....	吹田療育園 山 田 貞 雄
多発性硬化症.....	九州労災病院 三 好 正 堂
アメリカの精神科 OT の変遷	府中リハ学院 鈴 木 明 子
講 座	
失行症・失認症をどう理解するか (6)	東大 上 田 敏
今日の精神科 OT	
座談会／日本の精神科作業療法を考える.....	日下部病院 松井 紀和・他
症例の検討と反省	
脳卒中による顔面麻痺.....	伊豆韭山温泉病院 川 上 知嘉子
海外便り	
アメリカ留学をおえて.....	府中リハ学院 山 口 素 子
研究と報告	
片マヒ患者に対する Semi Long Leg Brace の考察.....	伊藤病院 奈 良 勲
Q and A	A: 都養育院 松 村 秩
	Q: 慶応病院 藤 沢 しげ子
メディカルプロGRESS.....	横浜市大 大 川 嗣 雄
	自治医大 大 井 淑 雄

編集後記

先日、本誌の第一巻から第七巻までを、通して読む機会があった。読後は、感慨無量であった。それは、皆様のお手許に各号が届くまでの、人手と月日の重みを思っても知れない。又は、振り返って読む時、その内容の進歩に、感慨を覚えたのかも知れない。編集には、少数の人々があたるが、本誌の内容は、日本の作業療法・理学療法の、その年々の歴史の反映のようにも、思われた。第一巻は、正に作業療法士・理学療法士が、一年生であった。何年生になった時、本当に読みごたえがあると、読者は納得するであろうか。学問上の裏づけを、私達が出来るようになった時であろうか。よいジャーナルを育てるために、一步一步参加された今日までの、執筆者・投稿者・読者・編集委員・編集室の各皆様に敬意とお礼を述べたい。

読者カードから、本誌の読者層は、広さも深さも、又購読の目的も、さまざまであることを知った。本号の特集は、読者の方々に、どういう形でお役に立つかと、楽しみに思う。医師の痛みの治療と平行して、私も考えられる限りのことを試みたが、どうしても解決出来なかった慢性関節リウマチの患者さんのこと。その痛みは、実に実に執拗に思われた。施設の大半の老人から訴えられる、痛み。時に漠として、とらえられず、訴えが重さなる度に、痛みに対し、無力だと思ふ。御しがたい痛みに対して、くやしいと思う。絶え間なく痛み苦しむ患者さんには、「誰かどうにかしてくれないか」と人頼みを本気に、思う。

それ程、「痛み」は、セラピストにとって、大変な、手強い実在である。

皆様、ごきげんよう。

(田村美枝子)

編集顧問

天 児 民 和
九州労災病院長
五味 重 春
府中リハビリ学院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
(五十音順、以下同じ)

編集委員

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴 木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
田 村 美枝子
リハビリ学院
寺 山 久美子
都心障センター
松 村 秩
都養育院リハビリ部

編集同人

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭

(担当 細田・松橋)